

「よろこばれる建物づくり」を目指す

「よろこばれる建物づくり」を追求する信和建設（大阪市淀川区）は、温浴施設付きの賃貸マンションや屋上菜園付きマンションなど、さまざまな発想を実現している。建物の長寿命化をもたらすとともに、広大な収納スペースを確保する工法を採用。独自の展開で成長を遂げている同社の前田裕幸社長にマンション建設や経営の

信和建設 前田 裕幸社長



まえだ・ひろゆき 昭和42年生まれ。平成元年、信和建設入社。12年、代表取締役就任。豊富なアイデアを持ち、ホテルや介護施設、貸し会議室などの運営も手掛ける。バイタリティーに富んだ人柄で、信和グループの従業員、約380人を率いる。

こだわり、企業理念に掲げる「よろこび」への思いなどを聞いた。

◇ 企業理念の「人のよろこびを自分のよろこびとする」など「よろこび」という言葉に込めた思いを教えてください

「社員に『うれしいときは、どういうときか』と聞くと、お客さまに喜んでいただいたときだとい

います。私自身も、お客さまに喜んでいただくのはもちろん、社員が生き生きと働いている姿を見ると、モチベーションが上がります。お客さまはもちろん、社員や取引先、全ての人が喜びを感じられることによって、企業は継続的に発展していくという思いがあります」

屋上に天然温泉施設

——屋上に温泉施設（ひなたの湯）を備えた賃貸マンション（ドルチェヴィータ新大阪）など、さまざまな発想を実現しています
「私は温泉が好きなので、仕事が終わってから有馬温泉へ行ったり、家に帰ることが、よくあります。ある社員が『帰りたくなる家をつくりたいですよ』という話をしていたのが、ずっと頭に残っていました。新大阪で開発しようとしたときに、一人暮らしや単

身赴任の方が、毎日温泉旅館に帰っていいな、という発想でした。社員の3分の2くらいが反対だったんですけど、やりたいという思いが勝って、温泉を掘るところから始めました」

——まさに喜ばれる建物づくりですね

「われわれは『長屋文化の復活』もテーマに挙げていまして、温泉だったら、マンションに住まわれている方も、近所の方たちも入りに来られて、顔見知りになったりします。分譲マンションを作るときは、できるところでは必ず屋上菜園を作るんですよ。なかなか接触する機会がないお年寄りの方や単身の女性の方も会話が弾んだりする、そういうイメージです」

独自の工法を採用

——建物の長寿命化にも取り組んでいます
「在来工法は、コンクリートのなかに配線や配管が埋まっている

ので、内装や設備が、古くなっても取り換えることが難しいです。そこで、建物の骨格と内装を分離する工法を、さらに進化させた『ルネス工法』を積極的に推奨しています。天井の梁を床下にもってくる工法で、梁の上に床を置くので、床下に60%ほどの空間が取れるんですね。その空間によって遮音性が高くなり、空間を生かした収納スペースをつくれます。マンションで問題になる騒音、収納不足をクリアした工法です」

——最後に、経営で心掛けていることは

「やりたいことがいっぱいありますので、それをいかに実現していくか、走りながら、考えながら『止まっていたらアカン』という感覚で仕事をしています。社員が定年になって、退職するとき『良い会社で働けて良かったな』と思ってもらえる会社にするのが、究極の目標です」